

ほけんだより 8月

2024年8月1日発行
聖隷こども園
保育園 保健部会

暑い日が続き、園でも水遊びをする子どもたちの声が聞こえてきます。ご家庭でもお休みの日は親子で水と触れ合う方もいらっしゃるのではないのでしょうか。このように、水は生活を豊かにするものですが、ときに子どもの命を奪う脅威となります。子どもの溺水（溺れること）事故について知ることが、子どもの命を守ることに繋がります。

子どもの溺水事故の約半数は家庭で起こります。

4歳以下ではお風呂での事故が多いです。

4歳以下 → 5歳以上



5歳以上になると屋外での事故が増える傾向があります。

家庭での事故

<こんな特徴があります>

悲鳴や助けを求め
る声は聞こえない

子どもは
静かに溺れる

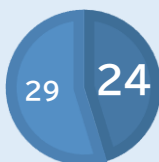


- 家庭内ではお風呂での事故が多い

<右グラフ参照>

全事故 53 件のうち 24 件が浴槽

- 大人が目を離した際に起きる
- 水深 2.5cm の浅い場所でも起きている
- お風呂で起きた事故の半数以上が入院となり、死亡してしまうケースもある



<こんなことに気をつけよう>

- 大人が洗髪中は、子どもは浴槽から出す
- 子どもは大人より後に浴室に入れ、先に出す
- 子どもだけで入浴させない
- 入浴後は浴槽の水を抜く
- 洗濯機はチャイルドロックを利用
- 浴室や洗面所を施錠、もしくはベビーガードを使う



川や海での事故予防

<事前準備が大切>

- 天気の確認をする(当日だけでなく、前日・前々日も雨なら増水や流れが速いサイン)
- 設置されている看板やサイレンを確認する
- 体調が悪いときは無理をしない

<当日のポイント>

- 大人は子どもに手が届く距離で見守りをする
- 水に入るのは膝下まで



<命を守る服装>

脱げにくい帽子

直射日光から身を守ります。飛ばされにくいものが良いです。



ラッシュガード

冷たい水に肌が直接触れないため、体温が下がりにくくなります。陸に上がったとき、すぐ乾く素材が良いでしょう。

ライフジャケット

命を守るためには不可欠です。

かかとのある靴

水に流されたサンダルを追って深みにはまり命を落とすことがあるため、かかと付きにしましょう。小石などによる足のケガを防ぎます。

